13

キリストの大祭司職務

1．キリストを大祭司と語る、聖書箇所は何処ですか。

聖書は、キリストを、永遠なる大祭司と語っています（詩 110:4)。神の働きに忠実な大祭司であり（ヘブル 2:17, 3:1）後に来られる偉大なる大祭司（ヘブル 9:11）と語っています。また、キリストは、神の御前で私たちの代言者となられ（Ｉヨハネ 2:1)、ご自身を贖いの代価として奉げられた（Ｉテモテ 2:6)、神の小羊となります（ヨハネ 1:29)。この聖句とは、あることのための影ではなく、実際に成就されたことです。

2．キリストが永遠に、聖なる大祭司となるとは、何を意味しますか。

キリストが永遠の大祭司となるとは（ヘブル 7:24, 8:6）罪人は、ただキリストによってのみ赦され、受け入れられるという意味です。父なる神は、キリストに血を流すことを要求しました。その犠牲の効力は終わりがありません。キリストを聖なる大祭司と語るのは（ヘブル 7:26, 9:14）ご自身は、罪とは関係のない

祭司だと言う意味です。大祭司は自分自身と民の罪のために犠牲のいけにえとなられました。キリストは、ただ私たちの弱さのためにむち打たれました。

律法によると、犠牲の捧げものは傷があってはならず、祭司たちも傷があってはならないのですが、それはキリストを予表することでした。キリストは属性の上、聖なる方だけでなく、その生涯も聖くあられました。キリストの大祭司職務遂行は、レビ記の祭司とは異なって、その民のためにご自身を捧げ、その捧げは、ただ一度でしたが、永遠なる効力を持つことでした。従って、その大祭司職務は絶対的であり、安全で、卓越なものとして、神が選んだ者を、神と和解させるための救いの手段となりました。

３．キリストの大祭司職務を、メルキゼデクに予表する、理由は何ですか。

レビ記において祭司たちは、彼らが死ねば、その息子たちが祭司の職務を受け継ぎました。祭司職務は、このように持続されますが、祭司本人が続けて職務を遂行するのではありません。しかし、キリストの大祭司職務は、レビ記の律法規定に従ってのことではなく、あるいは、誰から受け次いで始まったことでもありません。このようにキリストは、ただ一度大祭司として、永遠の大祭司でもあるから、メルキゼデクの位に等しい大祭司となられたと語っています（ヘブル 5:6)。

４．キリストが、大祭司職務として遂行なさる、主な職務は何ですか。

大祭司として、キリストの職務は、罪を贖うことでした。キリストは自分自身をただ一度、父なる神にお捧げしました。私たちの罪を背負われ、私たちのために呪いを受けられました。キリストは、自分自身を小羊のように犠牲のい

けにえとして神にお捧げしました。神はそれを喜んで受けられました。キリストの一番の恐ろしい苦痛は、選ばれた者たちのすべての罪を代わりに背負われることでした（イザヤ 53:5、Ⅰペテロ 2:24、Ⅰヨハネ 2:2）。このようにキリストが、ご自身を捧げたことで神の公義を満足させました。それによって神の怒りは納まり、私たちは贖われ、神と和解することができました。私たちの罪は取り去られました。私たちは罪に対する審判からも自由になりました（ヘブル 9:26-28）。

５．キリストは、どのようにして、私たちの罪に対する負債を返しましたか。

神への私たちの負債は、私たちが当然、従順すべき時に従順しなかったことと、私たちの罪に対する神の審判です。それは、神の律法に違反したことであり、自分自身を永遠の死に閉じ込めたことです。しかし、私たちが当然、支払うべき負債を、私たちの罪に対する神の審判を、キリストが苦しみを受け死なれたことで、神への全き従順によって支払われたこと、それによって神の公義を満足させました。神に対するキリストの完全さ、絶対的な従順は（ロマ 5:19）、私たちに、神から恵みを受けるようにしました（エペソ 1:6）。キリストの苦難によって私たちが罪から赦しを受け、キリストの律法に対する全き従順によって、私たちは義を得られたのです（Ⅱコリント 5:21）。またキリストは、来るべき後の世でも私たちに永遠の幸せを与えます。

６．キリストの大祭司職務は、どのように構成されていますか。

キリストの大祭司職務は、二つに分類されます。一番目は、前で調べたように、罪と審判から救う贖い（redemption）です（ルカ 1:68-69、ヘブル 9:24-26）。そして、二番目は、父なる神の御前で、私たちのための執り成し（intercession）を

なさることです。キリストは地上におられた時も私たちのために執り成しをされました。そして天に昇られ、神の御座の右で私たちのために永遠に執り成し、ご自身の功労を根拠にして執り成しておられます。

7．天において、キリストの大祭司職務は、どのようなものですか。

キリストは昇天なさり、天の御座の右に着座されました。キリストは天において、父なる神の選ばれた者たちのために現れ、執り成しをもって大祭司職務を遂行なさっています。つまり天で、ご自分の民のために続けて仲保しておられます。まるで、弁護者のように仲介者の働きをなさっています（黙 3 章）。このようにキリストは、私たちのために、ご自身の望みを切実に父に知らせているのです（ヨハネ 17:24）。

事実、このようなキリストの執り成しは、人が堕落した直後から始まったのですが、天に上られた以降も持続されています。キリストの大祭司職務による効果は、私たちを神と和解させ、罪の赦しを得させ、聖霊の交わりと恵みの中に留まるようにし、真実な者たちの祈りが神に受け入れられるようにします。また、信者たちに良い行いを行わせ、苦難の中にも信者が慰めを受けるようにします。キリストの大祭司職務は、苦しみを受けている魂に対する愛が、実行されているからです。

8．キリストの執り成しは、何によって構成されていますか。

キリストはご自身の功労を根拠にして、続けて父なる神に私たちの名をもって誓願なさいます。キリストは敵対者たちの告訴から、私たちを自由にさせ、

私たちが正しく祈れるように聖霊によって私たちを教えます。それによって、私たちの願いことが神に受け入れられるようにしてくださいます。キリストはご自身の仲裁の恩徳を私たちに適用させ、神の御前に私たちの罪が覆われるようになさいます。キリストの執り成しによって私たちは、神に大胆に祈ることができ、神を父と呼べるのです。キリストの執り成しによって私たちの不足と欠陥ある行為も、神の御前で善行と見なされるのです。

９．キリストの執り成しの効力は、どのようなものですか。

キリストの執り成しの効力は、すべての世代に及び（ヘブル 7:25、黙 8:3-4）、また、神のすべての約束に影響を及ぼします（ヨハネ 16:24）。それゆえ、私たちが神の約束を根拠にして祈る時、その祈りが、キリストの執り成しのゆえに、ますます有効になります。更にキリストは、教会に対する約束の成就のために執り成しをされるので、神はそれを聞かれ、約束を移行なさいます。キリストと父は、御心が一つで、同じだからです（ヨハネ 10:30）。